



伝統構法
に学ぶ

住まい 涼木

その10

文・荒野一星

囚われのない調和

夢木香主催「築切の家リフォーム完成見学会」(9月3、4日)。9月4日午後。午前中まで居座っていた台風もやっと重い腰を上げ、数日ぶりの青空がどんどん広がっていく。山並には夏の名残りの入道雲。上空にはうっすらと秋の雲。季節の移ろいが心地よい。リフォーム成った白石町築切の瀬川邸。そんな青空とさり気なく溶け合い、美しかった。

外側の柱・梁部分は濃い黒(紅殻+松煙)。漆喰壁の白を際立たせている。このインド・ベンガル産の無機顔料「紅殻」は、耐日光、耐熱性にもすぐれている。

人は、財力、権力、名誉心などという、本来、自己の本質とは関係のない方便を、自己と同一化しがちなもの。茶室の躰り口は、そうした此の世界的な衣裳を脱ぎ捨て、「無位の真人」へと回帰するところ。「幽玄」なる「関門」。

II 玄関も同じ意味を持つ。瀬川家の玄関のさり気なさ、そして構えのなさは、そうした「身構え」が全く無意味であることを、自然に気づかせてしまう。その玄関横の縁側から

上から見ていた。南に面した1間中では長さ5間程のデッキ風縁側は、戸外につき出した形。内と

外の境界が希薄化するこのつくり。どこか懐しく、どこか新しい空間。その自由さ! その開放感! 夢木香の家づくりの真骨頂と言えるだろう。

夢木香の梁組には、いつもながら心躍らされる。台所の梁は杉の古材だが、他はすべて松の古材。新材、古材、無数の部材には、ひとつとして同じ形のものはない。それでいながら、全てが見事におさまっている。その観性の深さに思わず唖ってしまおう。西洋建築のシンメトリックで機能的なパラスも、それなりに美しくはある。しかし、心躍る! という意味では、伝統構法の「囚われのない調和」は、まるで次元がちがう。「みんなちがって、みんな



引き寄せて結べば柴の庵にて解くれば元の野原なりけり

慈鎮和尚のこの観性の

いい」の世界。東西南北、全方位に窓があり、風が心地よく吹き抜ける。床はすべて板張り。漆喰壁の間仕切りが2ヶ所あるが、各々の空間は隔離されずに繋がっている。風呂と手洗いに外には扉がない。素朴さ! 自由さ! 開放感! 全てが心地よく、この上なくシンプルで木の空間。シンプルだからこそ多機能でもある。住み手に遊び心と美意識があれば限りなく美しくなり、なければ単調で退屈、限りなく乱雑にもなる。正に宇宙そのもの。生命そのもの。

延長上に、日本古来の美学がある。部屋の数機能性、押入れ、風呂敷卓袱台で食事をし、食事が終わればそのまま茶の間にも客間にもなり、卓袱台を片付ければ、寝室に変わってしまう。そして、使わない時には、何もなくなる。「無」とも「空」とも言うべきこの美学は、西欧流のニヒリズムとは次元が異なる。「あれかこれか」という二元対立ではなく、「あれもこれも」という、すべてを本質的に一つのものとして捉える一元論的な観性。自己主張よりも謙虚な受容性を優先させる母性的資質。日本古来のこうした観性こそ、様々な文化を結びつけ昇華させた基だろう。

「つつしみ」「つつましさ」。日本文化を象徴するこの言葉は、「包む」から生まれた。慈愛溢れる母親が子を抱く時の無私的愛。個としての母性を超えた、生きとし生けるものすべてを包み込み、育む宇宙そのものの普遍的な母性。瀬川夫妻との語りの中に、この美しい2つの言葉を観じ、癒された。

冬、この空間に包まれ、炉端で憩う団居の時。世間的な「意味」から解放された時の流れ... 心躍る!

有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847
http://www.yumekikou-happy.com
☎0120-835-832
TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334
E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp

100年後も凛と立つ家

若楠の家 完成見学会

日時: 10月1日(土) 2日(日)
10:00 ~ 17:00

場所: 佐賀市若楠

- 自然素材で仕上げ、健康に配慮した住まいです
- 桧の大黒柱があります
- 自然の風を楽しむ住まいです
- 丸太梁を使った木組みの住まいです
- 土蔵造りの土壁の呼吸する住まいです

